

# NEC Cloud System ポータル ポータル基盤手順書

第4.0版  
2017年07月  
日本電気株式会社

## 免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複写することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

## 商標

- ・ LINUXは、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Red Hat、Red Hat Enterprise Linuxは米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc.の商標です。
- ・ OpenStackは、OpenStack Foundationの登録商標または商標です。
- ・ Elasticsearch, Logstash, Kibana は、Elasticsearch BVの米国およびその他の国における登録 商標または商標です。
- ・ Drupalの名称およびそのロゴは、Drupal Associationが所有する登録商標または商標です。
- ・ Cloudifyは、GigaSpaces Technologiesの登録商標または商標です。
- ・ Google ChromeはGoogle Inc. が所有する商標または登録商標です。
- ・ Mozilla、Firefoxの名称およびそのロゴは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、本書内では、®、TM、©の記号は省略しています。

# 目次

## 作業手順

1. Ansibleプレイブック構成ファイルの配置と環境に合わせた編集
2. global\_biz\_dbの実行
3. region\_biz\_dbの実行
4. global\_keystone\_servの実行
5. global\_biz\_servの実行
6. region\_biz\_servの実行
7. global\_cms\_servの実行
8. region\_cms\_servの実行
9. global\_portalの実行
10. region\_portalの実行
11. Kibanaの設定

## ◆作業手順

項番	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
1.	Ansibleプレイブック構成ファイルの配置と環境に合わせた編集		Ansibleサーバに、提供資料のAnsibleプレイブックを配置する。  Ansibleのplaybookは別紙【Infrastructure construction guide-playbook.pdf】を参照し、環境に合わせて修正を実施する。	
2.	global.biz.dbの実行		Ansibleを実行する。 # ansible-playbook global.biz.db.yml -i global.biz.db -i inventory/oss/hosts -k -vvv	
3.	region.biz.dbの実行		Ansibleを実行する。 # ansible-playbook region.biz.db.yml -i region.biz.db -i inventory/oss/hosts -k -vvv	
4.	global.keystone.servの実行		Ansibleを実行する。 # ansible-playbook global.keystone.serv.yml -i global.keystone.serv -i inventory/oss/hosts -k -vvv	
5.	global.biz.servの実行		Ansibleを実行する。 getPip.pyをダウンロードしておく # wget https://bootstrap.pypa.io/get-pip.py 以下のディレクトリに、納品物のパッケージを配置する。 <配置したAnsibleプレイブック>%files%get-pip.py <配置したAnsibleプレイブック>%files%Aflr.tar.gz <配置したAnsibleプレイブック>%files%python-Aflocient.tar.gz  # ansible-playbook global.biz.serv.yml -i global.biz.serv -i inventory/oss/hosts -k -vvv	
6.	region.biz.servの実行		コンポーネントと同一サーバにlogstashをインストール済みであること。  Ansibleを実行する。 以下のディレクトリに、納品物のパッケージを配置する。 <配置したAnsibleプレイブック>%files%Capacity.tar.gz  # ansible-playbook region.biz.serv.yml -i region.biz.serv -i inventory/oss/hosts -k -vvv  必要なファイルを取得する # wget https://raw.githubusercontent.com/elastic/logstash/v1.4.4/patterns/grok-patterns 取得したファイルを<配置したAnsibleプレイブック>%files%にコピーする。  Logstash # ansible-playbook logstash.capacity.yml -i logstash.capacity -i inventory/oss/hosts -k	圧縮ファイル内のパス構成にも注意
7.	global.cms.servの実行		別紙【install-guide-announcement-jp.pdf】を参照し、Drupal を実行する。	
8.	region.cms.servの実行		別紙【install-guide-announcement-jp.pdf】を参照し、Drupal を実行する。	
9.	global.portalの実行		コンポーネントと同一サーバにlogstashをインストール済みであること。  Ansibleを実行する。 以下のディレクトリに、納品物のパッケージを配置する。 <配置したAnsibleプレイブック>%files%Aflr-dashboard.tar.gz <配置したAnsibleプレイブック>%files%NECCSPortal-dashboard.tar.gz <配置したAnsibleプレイブック>%files%self-identity-dashboard.tar.gz <配置したAnsibleプレイブック>%files%announces-dashboard.tar.gz  以下のディレクトリに正しい証明書と認証鍵を配置してください。 <配置したAnsibleプレイブック>%files%  NECCSPortal # ansible-playbook global.portal.yml -i global.portal -i inventory/oss/hosts -k -vvv	圧縮ファイル内のパス構成にも注意
10.	region.portalの実行		コンポーネントと同一サーバにlogstashをインストール済みであること。  NECCSPortal # ansible-playbook region.portal.yml -i region.portal -i inventory/oss/hosts -k -vvv  Logstash # ansible-playbook logstash.operation_log.yml -i logstash.operation_log -i inventory/oss/hosts -k -vvv	
11.	kibana手動設定		ブラウザ(IE不可)で、下記ポートにアクセスする。 http://<IPAddress>:5601/  Kibana が表示するグラフの色を変える設定をする。 [settings] - [Advanced] で、[visualization:colorMapping]に下記を設定する。 ["Count","#57c17b","Max vcpu used":,"#6689c3","Max cpus":,"#3cb371","Max vcpu":,"#ffa500","Max vcpu_quota":,"#6689c3","Max memory_mb":,"#6689c3","Max memory_mb used":,"#3cb371","Max memory_mb_quota":,"#3cb371","Max local_gb":,"#6689c3","Max local_gb used":,"#3cb371","Max local_gb_quota":,"#ffa500"]  [settings] - [Indices] で、以下を作成する。 portal-* region_portalの場合 nova-capacity-* portal-history-project-* global_portalの場合 portal-history-administrator-*  ※いずれも、“Time-field name” は @timestamp	

**kibana** | Overview | Visualize | Dashboard | Settings

Index Patterns | Advanced | Fields | Alert

## Configure an index pattern

In order to use Kibana you must configure at least one index pattern. Index patterns are used to identify the Elasticsearch index to run search and analytics against. They are also used to configure facets.

- ☒ Index contains time-based events
  - ☐ Use event times to create index names

Index name or pattern

Store capacity

@timestamp

Create

[settings] - [Objects] で、提供パラメータファイルの下記を Load する。 all settings.json
--

Kibana の Indices 作成のために elasticsearch に格納したデータを削除する

elasticsearch に格納済みのデータ(インデックス)をリストアップする。

※**<IPアドレス>** は、elasticsearch サーバの IPアドレス

```
# curl -XGET http://<IPアドレス>:9200/_aliases?pretty
```

出力例)

```

    "portal-history-project-ff21472e96ab4e59bb46a07dd6044dbb-2015.10.09" : {
      "aliases" : {}
    },
    "portal-history-project-aea8a5736ffa42ee98d181dcaa96b531-2015.10.15" : {
      "aliases" : {}
    },
    "portal-history-tenant-b01b03328f7243b780e194135e2187b6-2015.09.29" : {
      "aliases" : {}
    },
    "portal-history-project-4596eb6f42d140bebf5b0f17110932b2-2015.10.08" : {
      "aliases" : {}
    },
    "portal-history-administrator-2015.10.29" : {
      "aliases" : {}
    },
    "portal-history-project-none-2015.10.28" : {
      "aliases" : {}
    },
    "ana parts1" : {
      "aliases" : {}
    },
    "portal-history-project-none-2015.10.16" : {
      "aliases" : {}
    }
  }
}

```

出力結果から、“ana\_parts1” および “ana\_parts2” あるいは、“kibana” 以外のデータすべてに以下のコマンドを実行して、データ削除を行う。

※**<IPアドレス>** は、elasticsearch サーバの IPアドレス

※＜インデクス名＞は下記サンプルを参照。

上述コマンドの出力結果例を以下に示す。青文字をインデクス名とする。

```
"portal-history-project-ff21472e96ab4e59bb46a07dd6044dbb-2015.10.09": {
  "aliases": {}
```

※URLエンコードが必要なケースがある

```
# curl -XDELETE http://<IPアドレス>:9200/<インデクス名>
```

出力例)

```

{"acknowledged":true}

```

※再度上述のリストアアップコマンドにて出力されなくなること確認するとよい。